参考資料３－５

令和７年３月６日

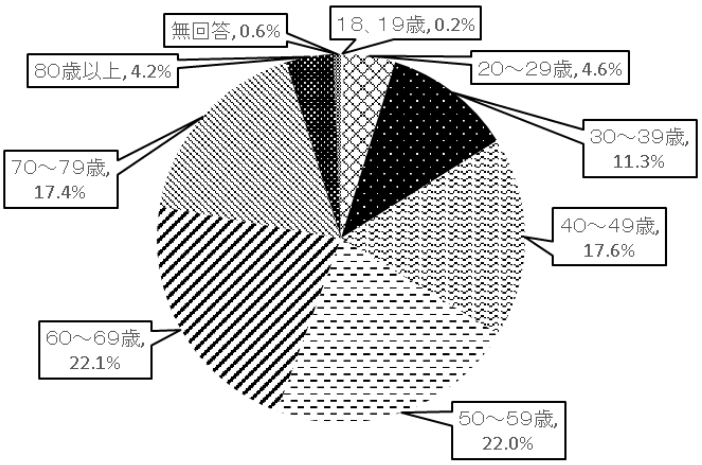
令和６年度県政世論調査結果（概要）

＜調査の概要＞

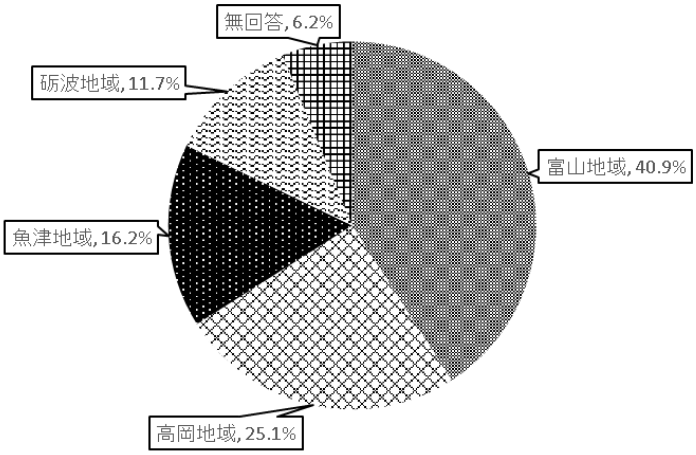
１	調査対象	県内に居住する満18歳以上の男女4,000人
２	調査期間	令和６年８月９日～９月６日
３	調査方法	郵送調査
４	回収数(率)	1,912人（47.8%）（10月1日時点） ※うちWEB回収 527（全回収数の27.6%） ＜Ｒ５年度：1,990人（49.8%）※うちWEB回収451人（全体回収の22.7%）＞

５　年代・地域別

（世代別）



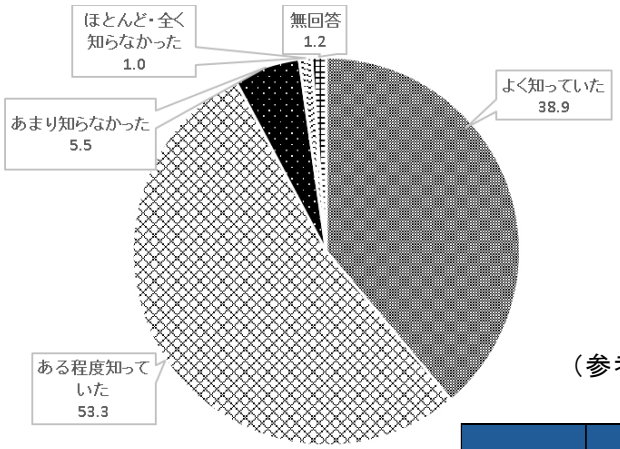
（地域別）



食品ロスの削減について

（１）食品ロスの認知度について（単一回答）

・『よく知っていた』と『ある程度知っていた』を合わせて、前回（R5）同様、9割を超えている。



・よく知っていた	38.9%	(36.4%)
・ある程度知っていた	53.3%	(53.7%)
小　計	**92.2%**	**(90.1%)**
・あまり知らなかった	5.5%	(5.9%)
・ほとんど・全く知らなかった	1.0%	(1.8%)
小　計	**6.5%**	**(7.7%)**

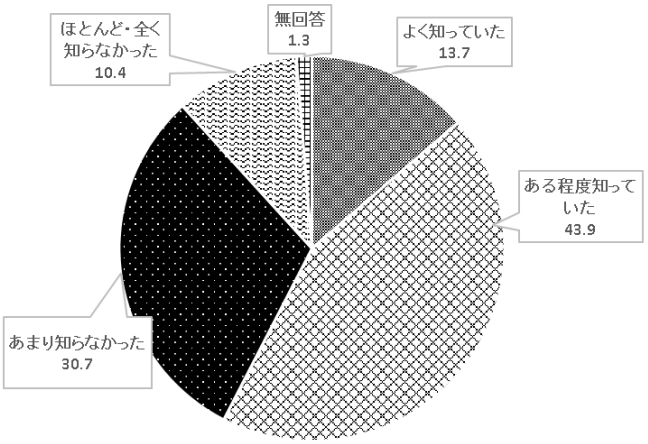
※（　）内は前回調査（R05）の結果

（参考）食品ロス問題を認知し、削減に向けて何らかの取組みを行っている人の割合

	R1	R2	R3	R4	R5	R6
県	80.9%	81.3%	90.7%	89.7%	88.6%	90.5%
国	76.5%	76.6%	78.3%	76.9%	76.7%	74.9%

（２）商慣習が食品ロス発生の大きな要因であることについて（単一回答）

・『よく知っていた』と『ある程度知っていた』を合わせて57.6%と過半数を超えている。



・よく知っていた	13.7%
・ある程度知っていた	43.9%
小　計	57.6%
・あまり知らなかった	30.7%
・ほとんど・全く知らなかった	10.4%
小　計	41.1%

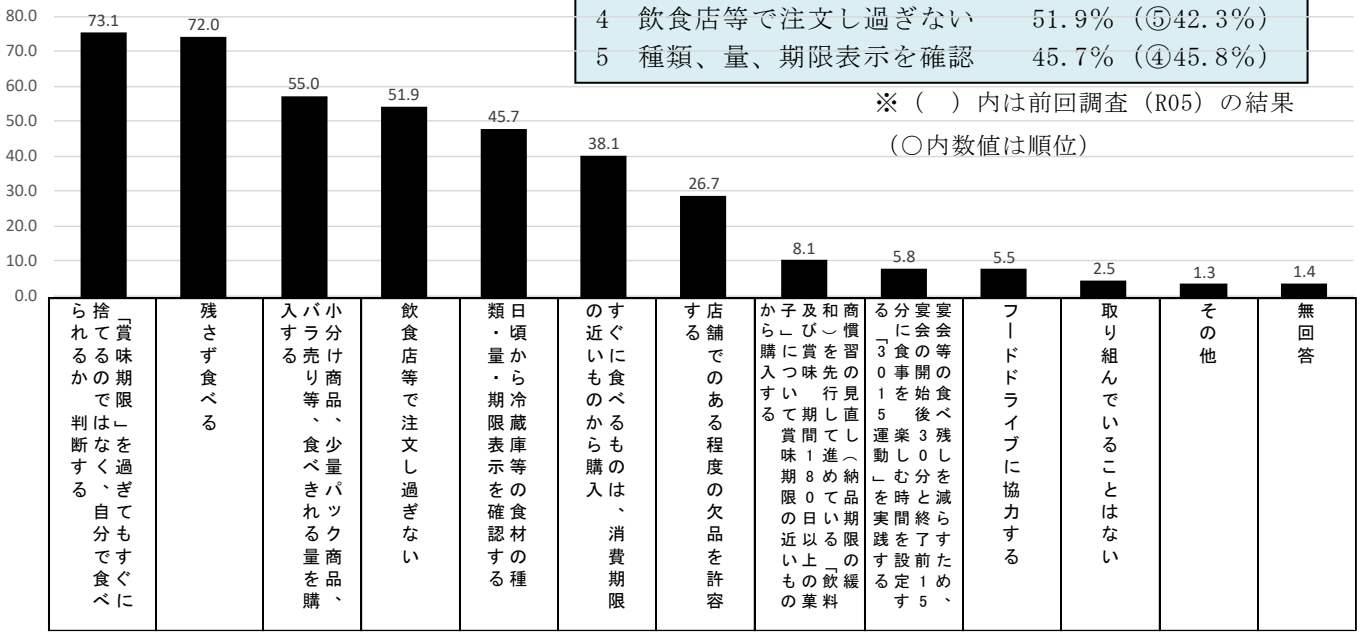
（３）食品ロスを減らすために取り組んでいることについて（複数回答：いくつでも）

・『自分で食べられるか判断する』が1位、次いで『残さず食べる』、『食べきれる量を購入する』の順となっている。

1	自分で食べられるか判断する	73.1%（①68.7%）
2	残さず食べる	62.0%（③63.5%）
3	食べきれる量を購入する	55.0%（②58.0%）
4	飲食店等で注文し過ぎない	51.9%（⑤42.3%）
5	種類、量、期限表示を確認	45.7%（④45.8%）

※（　）内は前回調査（R05）の結果

（○内数値は順位）



※1「3015（さんまるいちご）運動」とは、立山の標高3015mにちなみ、「30」と「15」をキーワードにした富山型の食品ロス削減運動。

〔食べきり3015運動〕：宴会時において、開演後30分と終了前15分に自席で料理を楽しむ時間を設定し、食べきる運動。
〔使いきり3015運動〕：毎月30日と15日に家庭の冷蔵庫等をチェックし、食材を使い切る運動。

※2「フードドライブ」とは、家庭で余っている食品を集めて、食品を必要としている福祉団体やこども食堂などに寄付する活動。